

<p>中長期目標 (学校ビジョン)</p>		<p>夢や希望に向かい 自分らしく輝いて たくましく生きる力を育む。</p>			<p>今年度の 重点目標</p>	<p>1 学習指導・授業改善に努める【授業実践の充実】 2 児童生徒の健康と安全を守る【QOLの向上】 3 「チームとりよう」を推進する【連携・協働】 4 業務改善に取り組む</p>	<p>《キーワード》 「可能性」</p>		
<p>年 度 当 初</p>					<p>()月</p>				
<p>評価項目</p>	<p>評価の具体項目</p>	<p>現状</p>	<p>目標(年度末の目指す姿)</p>	<p>目標達成のための方策</p>	<p>到達状況</p>	<p>評価</p>	<p>改善策</p>		
<p>1 学習指導・ 授業改善に努める【授業実践の充実】</p>	<p>小学部</p>	<p>○自分らしさを発揮し、願いを抱き意欲的に学ぶ授業づくり</p>	<p>○感染症予防対策を徹底した上で、日常的に授業を見る機会を設定し、学び合える環境作りが必要である。 ○教材教具や学習環境の不具合に気づいても、物品の確保や改善に時間がかかるため、そのままになっていることがある。</p>	<p>・教師が他クラスの実践を参考にしたり、教材や教室環境を改善したりしながら授業実践する中で、児童が自分らしさを発揮しながら学習している。</p>	<p>・学部の勉強会を副学部長が中心となって企画する。 ・学部長が教材教具や学習環境の不具合を開き取ったり、気づきを書き込む用紙を回覧したりする。 ・学部長が中心となって、改善事例を記録する。</p>				
	<p>中学部</p>	<p>○一人一人の課題や教育的ニーズに応じた授業づくり</p>	<p>○実態把握のもと教育的ニーズを共通理解し効果的なICT活用や教材・支援、授業展開の工夫など、継続して取組み、主体性を促すとともに学習の理解を深める必要がある。</p>	<p>・いろいろな学習に、興味や関心をもって、生き生きと意欲的に取り組んでいる。仲間や教師とかわり合う中で、さらに発展向上しようとしている。</p>	<p>・教師間で、放課後等に授業づくりや生徒の成長を話題にし、頻繁に情報交換を行う等、生徒の実態把握や授業の充実を努める。 ・教材の工夫や体験・集団活動の工夫、体験・集団活動等にICTを活用する等、授業の改善・充実を努める。</p>				
	<p>高等部</p>	<p>○キャリア教育の視点に立った授業づくり</p>	<p>○キャリア教育の視点について学部会で確認し、単一会、重複会等で授業やそれぞれの課題について話し合う機会を設けている。内容によって会のメンバーや方法を工夫しながら開催していく必要がある。</p>	<p>・学習に意欲的に取り組んでいく中で、キャリア教育の視点に立ったそれぞれの「つけたい力」を身につけようとしている。</p>	<p>・キャリア教育について共通理解をする機会を設ける。単一会、重複会や子どもを語る会等を月1回以上開き、情報交換をしながら授業改善に努める。</p>				
	<p>教務部</p>	<p>○学習に関する諸計画の在り方についての整理</p>	<p>○昨年度職員アンケートをとり、作成している諸様式の課題や改善点についてまとめた。 ○諸計画の様式の改訂に向けて必要な研修や共通理解の会を計画的に行う必要がある。</p>	<p>・児童生徒への指導の大元となる教育支援計画と個別の指導計画のつながり、評価について整理され、新様式の素案が作成されている。</p>	<p>・とりよまなびのプロジェクトで、改訂に向けて取り組む内容について関係する分掌と検討・整理を進める。 ・諸計画の見直しについて、改訂するポイントやメリットについて共通理解の会を開催する。 ・他校の情報も収集し、本校で活用しやすい様式を考案する。</p>				
	<p>研究研修部</p>	<p>○主体的な学びを育む授業づくり</p>	<p>○関係する分掌と連携を図りながら、計画的に研修を行ったり、本校の授業づくりや合わせた指導における年間指導計画の修正に取り組んだりする必要がある。</p>	<p>・児童生徒が主体的な学びを実現することができるよう、児童生徒の学びの姿を3観点での目標設定や評価に具体的につなげた授業改善や年間指導計画の作成が行われている。 ・研修2回 ・校内授業研究会各1回(単一・重複)</p>	<p>・児童生徒の主体的な学びの姿をイメージし目標設定や評価に生かすことができるよう、学習指導要領に関する研修を講義と演習を組み合わせて行ったり、授業研究会の実施の仕方を工夫したりする。 ・グループ研究会の時間を有効に活用しながら、授業改善に向けての話し合いや年間指導計画の作成を行う。</p>				
	<p>自立活動部</p>	<p>○児童生徒の実態に応じた、自立活動の適切な目標設定と指導内容の充実</p>	<p>○単一学級の児童生徒の目標設定において、チェックリストが作成されたので活用することが課題となっている。 ○職員の専門性向上のための研修が必要である。</p>	<p>・自立活動目標設定シートを活用した目標設定について、7割以上の職員が昨年度より理解できた、もしくはスムーズだったと感じている。 ・主催した各種研修会の内容が、教職員にとって日々の授業実践に役立つものであったと感じている。(7割以上)</p>	<p>・自立活動目標設定シートの活用に関する研修を開催する。また、目標検討会時に自立活動部員が助言ができるようにグループ編成を工夫し、アンケートを実施する。単一学級においては、児童生徒に応じたチェックリストを活用できるようにしていく。 ・MANABIを年4回以上発行するとともに、とりよ夏季セミナー、お役立ち勉強会等、実践に役立つ研修会を年5回以上実施し、アンケートをとる。</p>				
	<p>情報教育部</p>	<p>○ICTを活用した授業実践の推進と充実</p>	<p>○現在使用しているアプリに加えて、ニーズが高い教育関連に関するアプリ、Google suite、Google meets等にも対応し、遠隔授業等にも活用できることが喫緊の課題となっている。</p>	<p>・遠隔による授業、会議、課題対応等に対応したアプリの操作を行うことができる教員が8割以上となる。</p>	<p>・関係機関と連携し遠隔による授業、会議、課題対応等に対応したアプリに関する全体研修会、個別も含めたミニ研修会(お役立ち勉強会)を実施する。 ・iPadを使用した遠隔による情報発信、テレビ会議等の実践例の紹介を行う。</p>				
<p>2 児童生徒のQOL</p>	<p>全学部 児童生徒の学べる環境作り</p>	<p>○日常の児童生徒の心身の状況について情報交換、情報共有する体制ができてきている。しかし、新型コロナウイルス感染症への対応等、絶えず情報を更新しながら当たることが必要である。また、学部全体で児童生徒を見ていくような組織的な体制作りも必要である。</p>	<p>・衛生管理、室温等学習に適した教室環境ができてきている。 ・児童生徒の心身の状態の変化について関係職員が共通理解し、適切に対応している。</p>	<p>・清潔で安全な環境づくりについてポイントを適宜周知する。 ・清掃、消毒等感染症対策マニュアルに沿って正確に実施する。 ・児童生徒の実態に応じた環境改善について職員で情報交換をする。</p>					

【健康と安全を守る】	保健安全部	○児童生徒が安全に快適に学校生活を送ることができる環境整備と体制づくり	○昨年度は新型コロナ感染予防の為、予定されていた研修や訓練が予定通りに実施できず、現状に応じた活動となった。例年通りの開催とならなかったことで、新たな取り組みができたり、検討事例が明確となった。○校舎増築や工事に合わせ、安全で健康的な学校生活を送ることができるように、救急体制や感染予防対策等、今後の危機管理についての周知徹底を行っていく必要がある。	・個に応じた緊急救急体制が学級・学部・学校で共通理解され、危機管理意識を持ち、環境や体制が整備されている。 ・地震、火災時の避難経路や場所、児童生徒の引き渡し等、救急体制が確立している。	・ヒヤリハット事例を各学部で周知したり、研修や各種訓練、救急・防災ワーク等での課題を取り上げたりして、安全面・健康面に留意した対応を行う。 ・「今後の鳥養の防災の在り方」での案件を検討し、救急体制を決定する。 ・総務と連携して防災委員会を開催する。			
	小学部	○保護者や関係機関と連携した指導支援の充実とクラスを越えた協力体制づくり	○個人情報に留意しながら、回覧・PC上の保存情報共有の仕方を工夫することが必要である。 ○グループ学習や授業を見合うこと等を通して、お互いの授業力を高め合う機会を増やすことが必要である。	・学部職員が児童生徒の目標や課題、学校生活の様子を共通理解し専門性を活かしながら支援する中で、児童が安心して学校生活を送っている。	・小学部児童の学習、生活の目標や課題について一覧するシートを作成し、小学部職員間で共有する。 ・他クラスの児童の様子を知ることができるよう、余裕がある場合で隣のクラスの補欠等に入るようにする。 ・授業の様子の写真を共有する。			
	中学部	○自己表現に向けた指導・支援を行うための連携の在り方	・コロナ禍での進路学習について、さまざまな状況を想定した学習内容を考え、計画的に実施することが必要である。 ・生徒本人や保護者のニーズを聞き取り、必要な情報提供を行うことが必要である。	・進路学習をとおして将来の姿をイメージし、今すべきことを教師とともに考え実践しようとしている。	・生活年齢に応じた対応を行うとともに学年が上がるに依り、社会参加をより意識した取組を心がける。 ・生徒一人一人の病気や障がいの状態や特性に応じた適切な支援を行うために、保護者・関係機関との連携を深める。 ・進路指導主事と連携して、個々の実態を踏まえた進路学習(合同、個別)を計画し、実施する。			
	高等部	○確かな進路実現に向けての支援体制づくり	○個々のニーズに応じた情報の収集をし、それぞれの進路に関して、適切な指導や支援ができるように努めている。	・個々のニーズに応じた進路情報をもとにした体験等を通して、生徒が希望する進路実現に向けた学習に取り組んでいる。	・より適切な進路指導ができるように、進路に関する情報共有の場を年4回以上設ける。 ・個々の進路に応じた具体的な計画やスケジュールをもとに、保護者や関係機関と連携をとりながら、適切な進路指導を進めていく。			
	支援部	○地域におけるセンタ－的機能の充実 ○一人一人のニーズに応じた校内支援の充実	○感染症予防の観点から、例年行っている研修会を教育相談に代えて行ったり、教育相談に向向くことができない時はやむを得ず延期、中止したり、リモートで実施したりし、地域のニーズに充分応えることができなかった。感染症等の状況に合わせて、できる形を工夫して地域のニーズに応える必要がある。 ○ニーズに応じて関係機関と連携を図り、外部専門家から適切な支援の仕方について学んだり、支援会議等で適切な支援について検討しているが、その後の経過についてや再検討の必要性などの把握が十分でない。	・エキスパート教員や学部主事等と連携し、適切な支援方法の提供や就学相談を行う等、地域のニーズに応えている。(地域支援) ・一人一人のニーズに応じて、関係機関等との連携を図り学んだ支援方法等や、検討した取り組みが、日々の指導に活かされている。(校内支援)	・地域の病弱・肢体不自由学級の担任のニーズに合った研修会を行う。 ・教育相談で使用できる、本校の児童生徒の学習の様子がわかるような動画を作成する。 ・関係機関との連携を図り、学んだ支援方法等を活かした取り組みの様子や、関係者で検討した取り組みについて、その後の経過を把握し、必要に応じて再検討する。			
	文化部	○全校・全職員の共通理解の下、感染症対策を取りながら、わくわくフェスタを安全かつ効率的に運営する。	○随時、情報発信に努め、情報共有・共通理解を図ることができた。しかし、実際の運営面では、例年とは異なる取り組みをする中で、予想外の事態も生じ、スムーズにいかない場面があった。	・わくわくフェスタ全体の流れや担当する仕事内容を把握しながら、安全かつ効率的に運営したり、発表したりすることができたと全校の児童生徒職員の7割以上が感じている。	・わくわくフェスタに関する情報を分かりやすく整理した上で情報共有データベース上で適宜提供し、全職員で早めに共通理解する。			
	キャリア教育部	○本校の進路・キャリア教育の取り組みや収集した情報の発信	○コロナウイルス感染症に対応した職場体験・施設利用体験の実施方法を検討し、準備を進める必要がある。 ○本校のキャリア教育の基本的な考え方について理解するために、教職員研修を行った。キャリア教育参観日に合わせて、進路に関する情報提供を実施したが、年度末の保護者による評価が低かった。	・進路の流れやキャリア教育・人権教育の基本的な考え方について教職員で共通理解し、実態に応じた目標を意識して指導をしている。 ・卒業生の情報、福祉サービスの状況等、進路・キャリア教育に関する情報発信に努め、保護者の肯定的評価が80%以上となる。	・校内研修(全体、学部等)を2回以上計画し、進路、キャリア教育について教職員の共通理解を深める。 ・教職員、保護者への情報提供の方法を整理し、支援部と連携して保護者へ必要な情報が伝わるよう工夫する。			
4. 善の取組	総務部	○分掌業務、学級業務等の内容の見直し ○長時間勤務者の解消	○各分掌で業務の精選について検討しているが十分ではない。 ○学校行事の見直しと、担任、授業担当者が作成する文書の見直しが必要である。	・業務分担、業務の手順が整理されている。 ・月当たりの業務時間が令和2年度比20%削減。	・昨年度からの課題に絞って未来企画委員会において整理し、職員に周知する。			

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：変化の兆し D：まだ不十分 E：目標・方策の見直し
【100%】 【80%低津】 【60%程度】 【40%程度】 【30%未満】